

平成 24 年度

事業所名 : グループホーム ゆいっこ

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372200501		
法人名	社会福祉法人志和大樹会		
事業所名	グループホーム ゆいっこ		
所在地	岩手県紫波郡紫波町土館関沢24-1		
自己評価作成日	平成 24 年 9 月 28 日	評価結果市町村受理日	平成 25 年 3 月 22 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0372200501-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02">http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0372200501-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 24 年 10 月 25 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの個性を尊重し、本人の生活スタイルを守りながらみんなで楽しく生活することを基本的に支援を行っています。入所者本人様の希望・要望を出来る限り汲み取り、また、ご家族様の希望・要望も聞き「ゆいっこ」での生活に反映出来るように関係係りに尽力しております。毎月1回ケース記録にて1ヶ月の記録をまとめ、面会時には近況の報告を行い、入居者様の生活の中での問題点・改善点を話し合い「安心」「安楽」「快適な」生活を送っていただけるよう努力しております。「生活の継続性」に重点を置きご家族様・入所者様から聞き取りをし、出来る限り生活スタイルを変えせず、ご家族様の協力を得ながら支援を行っております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員の大規模な入れ替わりもあつたなかで管理者は就任後まだ1年経っていないが、利用者、ご家族の要望を一杯くみ取り、利用者の今までの生活をできるだけ継続していけるよう、職員共々日夜努力している。そして利用者の日常生活における役割を大切にしようという姿勢は、ケアプランにも明確に表れている。利用者にとっては職員のほとんどが孫世代であり、コミュニケーションにおいて世代間の隔たりはあるものの、それぞれの役割を模索しながら自律的な意識を育む雰囲気も芽生えてきている。職員や利用者の入れ替わりにより事業所運営が不安定な時期もあつたが、そのなかで職員、利用者、家族それぞれが試行錯誤しながら互いに誠実に向き合ってきたことが、運営に対する関係者全員の主体性と意欲を醸成している。これは事業所にとって大きな財産であり、互いの良いところを認め合い伸ばしていける事業所となれば、利用者、家族、地域の人と共同で育て上げる楽しみな、新しい形の事業所が生まれると期待している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

事業所名 : グループホーム ゆいっこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念に沿っての運営を行っている。事業所としての理念は現在半数以上がグループホームでの経験年数が2年に満たなく、理解と共有には難しい所があり、実践に向けて日々努力をしているところである。	「目配り」「気配り」「思いやり」の法人理念をもって、利用者の「今」を大切にしながら実践に当たっている。同時に、グループホームの経験が浅い職員にも理念の共有をはかっているところである。	理念は、事業所で働く職員一人ひとりが事業所の理念を理解し実践していくものである。日々の実践を通し、職員全員で事業所独自の理念を作り実践につながることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	流動的な入退居・職員の状態、近隣住民に入居していることを知られたくないご家族の意向もあり「蜜」な関係とは至れない現状もある。	事情により現在地域行事への参加等は見合わせているが、地域の人と畑を耕したり、懐かしのレコードを聞かせていただいたりと地域との交流はなされている。さらに小学校や保育園児の体験学習も予定しているところである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員の経験・実践不足のため貢献には現在いたれていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回定期的に開催し、職員も参加し会議内容の把握・理解は深める努力は行っているも、内容を運営等に十分に生かしきれてはいない現状である。	メンバーには民生委員、家族会代表、地域の「となり組」もいる。会議には積極的に参加いただき活発な話し合いとなっている。又メンバーは他の事業所視察研修に行くなどして、利用者のサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の1ヶ月に1回の訪問・1ヶ月に1回の地域包括ケア会議の参加により協力関係を築くよう取り組んでいる	町担当者の運営推進会議への出席もあり、事業所の理解は得られており、町主催の地域包括事業部会にも参加し勉強会等を行っている。今後、担当者の意見も積極的にいただきながら、連携を深める努力をしていきたいとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関・窓の日中の施錠の開放、散歩に行かれる入居者様には見守り・声掛けにて対応している。現状としてはスピーチロックの様な面もあるが自由に出来る環境を整えている。	玄関は自由に出入りできる状態となっており、利用者は畑や家の周りを自由に散歩している。又2ヶ月毎の勉強会で、全職員が身体拘束をしないケアの理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内身体拘束委員会の参加、グループホーム内の勉強会にて周知徹底し、目配りも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後内外部の勉強会等の開催、研修の出席とで職員間の情報共有に努めていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の説明と文書の提出、現状の情報共有を含め、ご家族と話し合う機会を設けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期に開催している家族会と、日頃面会時に頂いた意見等を運営推進会議や部署会議に反映している	年3回の家族会出席率は高く「親孝行がしたい」「外出させたい」等家族から意見も活発にいただき、来訪時の家族の意見、要望と併せて運営に反映させている。この1年の運営に対して家族からは戸惑いや期待も含め、様々な意見が寄せられている。	家族からの意見は事業所の課題と共に、運営に対しての参加意欲も表しており、家族との関係を大事にしようと考えてきた事業所の取り組みの成果ともいえる。率直にものが言い合える関係や、「自分たちにもできることはないか」という家族の主体性を今後も大事にしてほしい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署会議または個別で意見を提示する場を管理者は設けているが、法人との意見する場は法人代表者の意見の相違があり設けられていないところもある	「何でもノート」「申し送りノート」は職員の意見や提案の場ともなっている。時間の使い方や新任研修などの意見や要望もあり運営に反映させている。新採用の職員も多いなかで試行錯誤からの戸惑いも多いが、自分たちの実践の土台となる考え方を共有したいという思いは高まってきている。	職員の良い提案が運営に反映されることは、利用者の満足や良いサービスにつながるだけでなく職員のモチベーションもあがると思われる。職員全員の話し合いをベースにした事業所理念や目標設定と、職員採用時の理念の伝え方や新任研修の有り方、そして適宜な職員研修も今後期待したいところである。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が中心となり努力をしているが、法人代表者は現場任せにしており、現状の把握は難しいところではある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の申し送りや日常生活での話でも「ケア」のアドバイスがある。研修等一人ひとりのケアの実際と力量を把握した上での研修は難しい現状である		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に職員も参加し、参加した職員は部署会議や回覧で報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いを汲み取り、本人のしたいこと・思いが遂げることが出来るよう、関係作りと職員間の情報共有に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所・面会時等にご家族の要望等職員間で共有し対応するよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係作りに重点を置き、その中から本人・家族の思いを汲み取り対応するよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ひとつ屋根の下で生活するもの同士という思いが入所者には少なからずあるように感じ、その思いに共鳴できるよう努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時・書面・電話にて様子・近況を話しご家族と協力しながらご本人を支えていけるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はいつでも出来るよう配慮しているが、場所に関しては行ける人・行けない人がいるのは現状であり、病院受診は本人の慣れしたしんだところに行っている	ドライブ時は利用者の古里を通過し、慣れ親しんだ生活圏を感じることが出来る。また彼岸には仏様を連れてきたり、日頃はなじみの美容院やスーパーに出向くなど馴染みの人や場所が途切れないように支援している。これらの取り組みには家族の協力も多く得られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	現在入所者が全員女性であり、人へ気使いや付き合いはある程度円満に行われていると思う。そのときの状況も入所者同士理解しているところも見られるので職員もあえて静観している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後交流が取れていないため、出来ない		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で状態・表情であったり本人の思いを聞いたり感じ取れるよう努めているが、遂行するのにご家族の協力や職員間の工夫するよう努めている	日々の関わりの中で「どうしたら楽しく過ごしていただけるか」をポイントに利用者の思いや意向の把握に努めている。また家族から本人の以前の暮らしぶりについて教えてもらうことも多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	現在同法人のサービスを利用されていた方々の入所が多くなっているため部署間での情報共有やご家族の本人からの情報を得よう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	行動・言動・表情等を感じそのつどその方に合わせた場面を作るよう心がけている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを定期的に行い申し送り等に意見を出し合い(状態に変化が見られた際など)話し合い対応に努めている	介護計画はセンター方式を取り入れ、利用者、家族とも話し合い作成している。モニタリングも職員それぞれの意見を反映させながら行い、現状に即した介護計画を作成している。日々の生活面と本人の役割に特に焦点が置かれている。	利用者が何を楽しみとしているかを常に模索しながら、日々の生活を充実していくことを目指し取り組んでいる。職員全体が関わることで、利用者のニーズを捉える力も徐々に高まってきており、今後も職員すべてが関わりながら丁寧にプランを検討していくことが期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にどう対応したか記入するほか、申し送りやその時により共有するよう努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の思いに対応できるように努めているが、一方に偏ってしまうことが多い		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺住民の協力は得られるが、地域資源の活用には協力体制が出来ていない部分もあり共同できるよう努力したい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人としての嘱託医がいるが、他に家族の希望や嘱託医の専門外のものは希望のところに受診している	職員は町内のかかりつけ医受診と入院時や退院予定者に対応し、町外受診やその他の場合は家族の対応としている。また週1回の嘱託医の往診があり、緊急時はかかりつけ医と連携を取りながら適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人特養の看護師との医療連携をとっており、医療的ケアが必要な時や提起的に来所氏状態の報告を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の状態をケアワーカーと連絡を取り状態に応じた対応・相談を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後生活する上で予測できる中での出来ることを家族と相談し、どの様に支援していくのかケアプランに落としている	現在重度化には対応できるが、新人職員もいるため、家族には「現在できるところまで」として理解を得ている。終末期に向けた方針は今のところ明確ではないが、利用者や家族からの要望と職員の育成の状況をみながら、先々においてできる限りは対応したいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急訓練の研修の参加や特変時のマニュアル・対応も作成しており、職員がいつでも見れるところに配置してある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内避難訓練の実施と地域防災協力隊との連携をとってある	「消防署との緊急通報装置」の設置や、連絡網の体制は整っている。また10月には地域防災協力隊の参加を得て避難訓練を職員間で実施をし、利用者参加の訓練は近々予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた声掛け・対応するように心がけている	排泄に対しては特にプライドを傷つけないように配慮し、目や耳の不自由な人へは十分な準備のもとに対応している。さらにプライバシーを損ねない話し方や接し方で全職員支援をしている。経験の浅い職員は「今の話し方で良かったのか」と迷うことも多い。	管理者は職員に「ニュートラルな自分で利用者と関わってほしい」と伝えている。また職員の今の「迷い」は、利用者を尊重したいという気持ちの表れでもある。人として誠実に向き合いながら、様々な迷いも大事にしていてもらいたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	沢山の中からの選択は難しい方がいるので、入所者によっては、少ない選択肢にに対応している。自身で自己選択できるよう、見守り・声掛けを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全員で楽しむこと・個々にすること等その場に応じた支援と、希望があればその内容を少し変えたりすることが出来るように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え時本人と一緒に服を選ぶ、本人が好きなものを使っていただけるようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	なるべく入所者の好みの物提供して作る、調理・盛り付け・後片付け等やりたいことをしていただけるよう声掛け・場面作りをしている	「楽しく食事をしていただく事」をモットーに、盛り付け、小食の人への配慮の他、季節の行事や希望の外食も取り入れている。このほか家族会と運営推進会議を兼ね温泉にて食事の予定も立てている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に法人栄養士の献立を見えいただきチェックしており、食事・水分の摂取量のチェックし、職員間でもその日の状態を申し送り一人ひとりに合わせた形状に対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きが現在徹底されたいないため、職員間で声掛けし取り組みの強化・自力で行える方の清潔の保持は完全には出来ていない状態であるため今後の課題です		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し職員間で誘導が必要な方にはプライドを傷つけないような対応を行い、本人が排泄に意識が向くよう努めているがADLが低下している方はパットの併用を行っている	昼間は排泄チェック表にて声かけをし、ほとんどがトイレ使用となっている。夜間は失禁者も見られるが回数は減ってきている。声掛けについては利用者間の関係性と自尊心をふまえて、特に言葉の使い方に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量の少ない方・少なくなってきた方がいる現状であり、乳製品や整腸剤・自然排便を促せるようセンナ茶で対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	介助が必要な方は本人の意思を確認してから、日中の入浴が多い、自身で行える方は本人の希望に添った入浴が実現できていると思う	多い人で毎日、少ない人でも週2日は入浴しており、入浴時間は個々に沿っている。また入浴時はバイタルチェックを行い、入浴を拒む人には工夫した声かけをしながら、気分良く入浴いただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に添えるようにし、疲れが見られる方には声掛け・誘導を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を作り入所者の薬の理解と把握に努め、体調の変化が見られた際は嘱託医・看護師に相談連絡を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員女性の入所者のため、家事仕事を中心に、本人が出来ることをしていただき、1つに決めずに誰でも出来るように努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	各自の希望すべての実現には難しく、小人数での外出にて対応している。個別でご家族の協力していただくこともある	外出は、30分～1時間半を目途に紅葉狩りや公園、近くの散策など利用者の希望を取り入れて行っている。その他、お盆や正月には家族の協力を得て自宅に帰るなど、季節に応じた外出支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人自身がお金の管理はしていないが、買い物等で本人に支払いをしていただく場は作るようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話や手紙を出すことはしていないし、受けることにご家族の希望はない。面会数が多いためだと思います		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	直線廊下のため視界には注意している、疲れやすい方もいるので一定の間隔に椅子を置き、誰でもその場で会話できる空間作りに関心している	共用空間には行事の写真や季節の花が飾られ、食堂の横は畳の小上がりとなり居心地良く過ごせるよう工夫されている。特に朝の時間帯はリビングで家事に当たる利用者が多い。又玄関前のベンチは余興や納涼などに利用され、和みの場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	比較的自室で「一人になる」場を作る方が多く、共有の場と自室とのメリハリですごしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ本人の使い慣れている物を使っていただくようにし、ご家族が用意した物もあり本人好みの飾りになっているところもあると思う	居室には家族の写真や皆と作った切り絵の作品などがあり、窓辺には花の鉢などを置き、また使い慣れたテーブル等が持ち込まれたり、居心地良く過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シルバーカーを使う人に対し動きやすいよう、また、視力の弱い方にも動線に配慮している		